

## 総合計画市民検討協議会 第3回報告書（健康・福祉部会）

<b>記録者</b>	川村 昂史	<b>場所</b>	市役所北庁舎第1～3会議室	
<b>開催日時</b>	平成24年2月18日（土） 午前9時30分～午前11時55分			
<b>出席者 （11名）</b>	菅野 修逸	木田 幹郎	齊藤 真弓	鈴木 麻理絵
	山田 眞津美	横手 喜美子	渡邊 有子	
	川村 昂史	木佐貫 博之	菅原 香理	中村 允彦
<b>傍聴者</b>	なし（ ）			

<b>基本目標</b>	I 安心でいきいきと暮らせるまちづくり（健康・福祉）
<b>基本施策</b>	1 健康づくりの推進
<b>めざすまちの姿（平成33年のまちの姿）</b>	
<p>○<u>市民ひとりひとりが心身の健康づくりへの意識を高く持ち、取り組み、いきいきと自分らしく暮らしています。</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・健康＝幸せ、という意識をみんなが持っている。</li> <li>・健康づくりは、人と関わり合い、健康な「こころ」をつくることから始まる。市民みんなが人とのふれあいを大事にしながら生活している。</li> </ul> <p>○<u>みんながいつでも必要な時に必要な医療を受けることができます。</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・誰でも平等に、医療を受けられるようになり、「医療難民」がいなくなっている。</li> <li>・市民のライフスタイルの多様化に合わせ、夜間・休日などにかかることのできる医療機関が増え、必要な時にすぐに受診することができる。</li> </ul>	
<b>主な課題</b>	
<p>○<u>健康づくりへの意識をどのように高めるかが課題。</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・病気を予防するための知識を持ち、意識を高めることが重要。病気になって初めて、健康のありがたさが分かることもある。</li> <li>・定期検診などの健康診断の受診率が低いので、受診率をどのようにして上げていくかが課題。</li> <li>・うつ病などの心の病気が増えている（子どもにも増えている）ので、心の健康についても意識を高める必要がある。</li> </ul> <p>○<u>かかりつけ医の定着が課題。</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・もしものときにすぐに診てくれる医療機関を持つことで、大病院への紹介もスムーズにいく。</li> <li>・現状の介護保険制度は主治医がいなければ受けられない制度である。</li> </ul> <p>○<u>市民が健康に関して気軽に相談できる場所が少ないことが課題。</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「〇〇センター」のような特定の施設まで相談に行くのは大変。また、そのようなところに相談に行っているところを知り合いに見られると、心配されたり、噂になってしまう可能性もあるので、相談に行きにくい現状がある。</li> </ul>	

## 役割分担の考え方

### 【市民の役割】将来像の実現に向けて自分たち市民ができること、取り組むべきこと

#### ○自分の健康は自分が作る、という認識をもつ。

- ・健康に関する正しい知識を持ち、自ら情報収集に努める。(いくら行政が各種検診・講座などを充実させても、知ろうとしなければ参加することができない)
- ・「マイナス5歳」などの具体的な目標を設定して健康づくりをする。
- ・規則正しい生活を心がける。「早寝」「早起き」「3食きちんと取る」という当たり前のことができていない人が多いが、規則正しい生活を送ることで、将来の病気の予防にもなる。

#### ○病気の予防・早期発見に心がける。

- ・病気になってから慌てるのではなく、病気を予防することが重要。定期的に健康診断を受診し、市の行う検診等に積極的に参加する。
- ・かかりつけ医を持つほか、夜間休日に受診できる病院を確認しておくなど、いざというときの備えをしておく。

#### ○からだの健康だけでなく、心の健康にも目を向ける。

- ・最近では、うつ病などの「心の病気」も、誰でもかかりうる身近な病気となった。心の健康を損なわないよう、気分転換・ストレス解消方法などを持っておくことが大切。
- ・心の病気に対する偏見をなくすため、正しい知識を持つように努める。

#### ○地域ぐるみで「高齢者が元気な社会」を目指す。

- ・いくら健康で長生きしても、老後にひとりぼっちになると、寂しさからどんどん弱っていつてしまう。そのような対策として、例えば有志による「シニア聞き込み隊」を結成し、ひとり暮らしの高齢者の見守りや話し相手となる。

### 【行政の役割】自分たちの取り組みを実現するために行政に支援してもらいたいこと、行政が行うべきこと

#### ○市民の健康づくりへの意識を向上させるため、健康づくりの機会・場を提供する【健康づくりの支援】

- ・市民の運動不足を解消できるような施策・イベントを行ってほしい。例えば「シニア体育祭」「シニアマラソン」「ウォーキング大会」など。また、それを指導する側の育成も行ってほしい。
- ・公園に、大人も使いやすく、トレーニングができる遊具を設置してほしい。(他市の野川公園のように)
- ・わざわざ市の施設に出向かずとも、日頃の行動範囲内で健康づくりを意識できるように、地元のスーパー・商店などの一角にぶらさがり健康器を置いて誰でも使えるようにする等、スーパー等に協力を依頼してはどうか。

#### ○市民の食事を通じた健康づくりを支援する。【食育の推進】

- ・学校教育においては、現在の食育をより強化して続けてほしい。特に朝ごはんの重要性を改めて周知してほしい。
- ・子どもの食育だけでなく、大人の食育も必要。市の施設のレストランで「タニタ食堂」のような低カロリーかつバランスの良い食事を提供してはどうか。

#### ○子供を育てる「母親」の運動不足が解消できるようなサービスを提供する。【母子保健の充実】

- ・子育て中の母親の運動不足を解消するため、公共施設で託児付きのトレーニングやダンスなどの講座を開いてほしい。

#### ○学校において「健康教育」を実施し、子ども時代から強い心身を育成する。

- ・子どもの体力低下を予防するため、小中学校を中心に、なわとびやマラソンなどの基礎的体力をつける取り組みを行ってほしい。
- ・子ども時代(小中学校)からメンタルヘルス教育を実施してほしい。

- ・スクールカウンセラーの機能のさらなる充実に努めてほしい。

○**病気の予防に向けた施策を強化するとともに、PR方法を工夫する【疾病予防対策の充実】**

- ・病気の予防に関する講座・セミナー等を定期開催してほしい。
- ・市の実施する健康診断、がん検診などの情報が市民みんなに行き届くよう、PR方法を工夫してほしい。
- ・文化センターで高齢者の入浴事業を実施しているが、その日に合わせて看護師・保健師等に待機してもらい、入浴に来たついでに簡単な健康相談ができると良い。

○**「医療難民」をなくすべく、医療体制を確保・充実する。「かかりつけ医」の定着を目指す。**

**【地域医療体制の整備】**

- ・かかりつけ医の重要性を市民にわかりやすく周知し、普及と定着を目指してほしい。
- ・市全体を小さなブロックに分けて、皆が平等に医療を受けられるような体制にしてほしい。
- ・訪問診療のように「訪問検診」を実施してほしい。

**その他 提案事項**

(指標のアイデア、事業のアイデアなどの提案など。)

- ・協議に先立ち、司会への要望として「各委員に個別の意見を聞くのではなく、ひとつの意見に対して意見がある委員が関連することを述べる進行が望ましいのでは」という意見があった。

**事務局への連絡事項**

- ・本日検討した基本施策は「健康づくりの推進」と「子育て支援」の2本。
- ・次回は、「地域福祉活動の支援」と「高齢者サービスの充実」について検討する予定。

## 総合計画市民検討協議会 第3回報告書（健康・福祉部会）

<b>記録者</b>	川村 昂史	<b>場所</b>	市役所北庁舎第1～3会議室	
<b>開催日時</b>	平成24年2月18日（土） 午前9時30分～午前11時55分			
<b>出席者 （11名）</b>	菅野 修逸	木田 幹郎	齊藤 真弓	鈴木 麻理絵
	山田 眞津美	横手 喜美子	渡邊 有子	
	川村 昂史	木佐貫 博之	菅原 香理	中村 允彦
<b>傍聴者</b>	なし（ ）			

<b>基本目標</b>	1 安心でいきいきと暮らせるまちづくり（健康・福祉）
<b>基本施策</b>	2 子育て支援

### めざすまちの姿（平成33年のまちの姿）

#### ○安心して子どもを産み育てることができています。

- ・子育てに関する不安や悩みを気軽に相談できる場所がある。
- ・仕事と子育ての両立がしやすくなっている。
- ・女性も男性も育児休暇等の子育てのための休暇がとりやすくなっている。
- ・保育サービス（保育所、一時預かり、子育てヘルパー等）が充実している。
- ・行政の子育てに関する経済的支援が充実している。

#### ○市民みんなで子どもを育てています。

- ・家庭では、父親と母親がともに協力し合って子育てを行っている。
- ・地域では、市民が他人の子どもにも目を向け、地域ぐるみで育てるという意識を持っている。
- ・子育てを終えた世代が、子育て中またはこれから子育てする世代に、自分の経験を通して子育てに関する知識や情報を伝えることができています。
- ・他人と関わらない、誰にも相談しないという「孤立する母子」がいなくなっている。

#### ○人と自然とのふれあいを通じて、子どもが成長しています。

- ・子どもたちが、人との関わりはもちろん、公園や緑が多い府中のまちを生き、自然の中で多くのことを吸収し成長している。

### 主な課題

#### ○行政の子育て支援サービスの充実が課題。

- ・年々増え続けるニーズに適切に対応できるよう、保育サービス（保育所、一時預かり、子育てヘルパー等）をさらに充実させる必要がある。
- ・子育てに関する経済的支援の強化が課題。ひとり親世帯や低所得世帯だけでなく一般世帯への経済的支援も求められている。府中市では現在も医療費助成などの経済的支援があるが、もっと強化してほしいとの声もある。

#### ○気軽に相談場所や、子育て仲間を作れる場の整備が課題。

- ・子どもを抱えて特定の「○○センター」等まで相談に出向くのは難しいので、もっと気軽に相談できる場所を作してほしい。

- ・子育て支援に関する講座やイベントが少ないため、子育てに関する不安の解消や、子育て仲間を作れるような場が求められている。

○社会全体の「子育て支援」への意識改善が課題。

- ・子育ては母親への負担が依然として大きく、増えてきたとはいえ、まだまだ男性の子育てへの参加が少ない状況。男性が育児に参加しにくい（勤務先が男性の育児休暇取得を認めない等）社会の意識改善が課題。
- ・核家族化が進行し、3世代にわたる子育てができていない。

○健康な心身を持つ子どもの育成が課題。

- ・病気や災害の影響を受けやすい子どもの健全育成が課題。
- ・子どもでも「うつ」になる時代。子ども時代からのメンタルヘルス教育が課題。

**役割分担の考え方**

**【市民の役割】将来像の実現に向けて自分たち市民ができること、取り組むべきこと**

○地域全体で子育てをサポートしていく。

- ・地域全体で子どもを育てていくという意識を持つ。
- ・「あいさつ運動」などで子どもに声かけを行い、それが普通だという雰囲気のまちづくりをする。

○楽しみながらも責任を持って子育てをする。

- ・周囲や行政のサポートを受けつつも、最終的に子育てに責任を負うのは親である。自分が責任をもって子育てするという意識を持つことが大切。
- ・緊急時の連絡先や相談先を把握し、すぐに連絡できる状態にしておく。
- ・情報化社会を活用し、インターネットでコミュニティに参加するなどして親同士で情報交換をする。

○子育てを終えた世代と若い世代がお互いに交流する。

- ・子育てを終え、様々な経験を通して知識と知恵を得た中高年世代が、現在子育てをしているまたはこれから子育てする世代に「子育て」を教えていく。
- ・若い世代も嫌がらず、聞く耳を持つことが重要。

**【行政の役割】自分たちの取り組みを実現するために行政に支援してもらいたいこと、行政が行うべきこと**

○3世代による子育ての実現のため、異世代交流の機会を提供する【地域における子育て支援】

- ・子育てを終えた世代と、若い世代が交流する機会を作ってほしい。
- ・子どもたちが祖父母の世代と交流できるイベント、たとえば「おじいちゃん・おばあちゃんの昔の遊び講座」等を実施してほしい。

○親の育児に関する不安を軽減するため、気軽に相談できる場所・サービスを整備する。【子育て家庭の育児不安の解消】

- ・子どもの防犯施策における「子ども110番」のように、子育てに関しても、子ども・親ともに利用できる電話相談サービスを実施してほしい。
- ・とくに小さい子供を持つ親は、相談に出向くこと自体が難しいので、自宅にいても気軽に相談できるのが理想。
- ・話を聞いてもらえるだけで楽になることもある。

○子育てをする家庭の経済的負担を軽減する施策を充実する。【子育て家庭の経済的不安の軽減】

- ・経済的負担を軽減するため、一層の支援を行ってほしい。
- ・特に、就学前の経済的援助を充実させてほしい。

○保育所の整備のほか、ショートステイや家庭内での保育も含めた様々な保育サービスを充実する【多様な保育サービスの展開】

- ・保育所の整備をさらに促進して、待機児童を解消してほしい。
- ・子育てする親のライフスタイルも多様になっているので、どんな人のスタイルにも合うような保育サービスを実施してほしい。

**その他 提案事項**

(指標のアイデア、事業のアイデアなどの提案など)

**事務局への連絡事項**

- ・本日検討した基本施策は「健康づくりの推進」と「子育て支援」の2本。
- ・次回は、「地域福祉活動の支援」と「高齢者サービスの充実」について検討する予定。